

レジメン名称(パクリタキセル(1,8,15)+トラスツズマブ(d1)_q3w) 乳癌

ID _____ 患者氏名 _____ 様 (性別 _____)

身長 _____ cm 体重 _____ kg 年齢 _____ 歳 体表面積 _____ m²

薬剤	投与量	投与日			1 コース 3 週間
		Day 1	8	15	22
トラスツズマブ	初回 8 mg/kg、2 回目～6 mg/kg	↓			
パクリタキセル	80 mg/m ²	↓	↓	↓	

注意事項

パクリタキセル：アルコール過敏の確認。アルコール含有のため、外来施行時、運転等での来院について確認、注意すること。

パクリタキセルは起壊死性抗がん剤です。血管外漏出に特に注意してください。

乳腺外科時：パクリタキセル投与時、手足に弾性ストッキングを使用

心機能に注意 投与前には心機能を評価する (EF 50%以上)

添付文書より：トラスツズマブの投与が遅れた際には、以下のとおり投与することが望ましい。

- 1). 前回投与日から 6 週間未満のときには、6 m g / k g を投与する。
- 2). 前回投与日から 6 週間以上のときには、改めて初回投与量の 8 m g / k g で投与を行う。なお、次回以降は 6 m g / k g を 3 週間間隔で投与する。

パクリタセキル初回および 4 週以上あいた時：心電図モニター、BP、HR 測定、全身状態の観察が必要 (詳細は下記参照)

投与方法：1 日目	
1	生食 100mL ケモセーフロック (フィルター付き) の点滴セットを使用 メインルートにつなぎ、プライミング 点滴筒 (チェンバー) を 3/4 程度満たす
2	トラスツズマブ mg, 生食 250mL トラスツズマブは注射用水で溶解：60mg/3mL、150mg/7.2mL 90 分, (問題なければ) 次は 60 分, (問題なければ) 以降 30 分、メインルートから投与 注意：点滴時間は前回投与から 8 週以上経過している時は 90 分で投与 (初回扱い)
3	デキサート(3.3mg/1.0mL) 2A、デキサート(1.65mg/0.5mL) 1A、ファモチジン(20mg/20mL) 1A、ポララミン注 (5mg/1mL)、 生食 30 mL 5 分以上かけて点滴、メインルートから投与
4	グラニセトロン(3mg/100mL) 1V 30 分かけて点滴、メインルートから投与 終了後、メインルートを止める
5	パクリタキセル mg、生食 250 mL 60 分かけて、ケモセーフロックのルートより投与 乳腺外科時：パクリタキセル投与時、手足に弾性ストッキングを使用 初回および 4 週以上あいた時、下記を実施 心電図モニター 投与前、5 分後、15 分後、30 分後、終了時後：BP、HR 測定 投与前、5 分後、15 分後、30 分後、終了時後：全身状態の確認 (呼吸苦、悪寒、発疹、掻痒感、気分不良、嘔気)
6	生食 100mL メインルートから、ゆっくり、ウォッシュアウト 適宜途中終了可、残は破棄

投与方法：8、15 日目	
1	生食 100mL ケモセーフロック (フィルター付き) の点滴セットを使用 メインルートにつなぎ、プライミング 点滴筒 (チェンバー) を 3/4 程度満たす
2	デキサート(3.3mg/1.0mL) 2A、デキサート(1.65mg/0.5mL) 1A、ファモチジン(20mg/20mL) 1A、ポララミン注 (5mg/1mL)、 生食 30 mL 5 分以上かけて点滴、メインルートから投与
3	グラニセトロン(3mg/100mL) 1V 30 分かけて点滴、メインルートから投与 終了後、メインルートを止める
4	パクリタキセル mg、生食 250 mL 60 分かけて、ケモセーフロックのルートより投与 乳腺外科時：パクリタキセル投与時、手足に弾性ストッキングを使用 初回および 4 週以上あいた時、下記を実施 心電図モニター 投与前、5 分後、15 分後、30 分後、終了時後：BP、HR 測定 投与前、5 分後、15 分後、30 分後、終了時後：全身状態の確認 (呼吸苦、悪寒、発疹、掻痒感、気分不良、嘔気)
5	生食 100mL メインルートから、ゆっくり、ウォッシュアウト 適宜途中終了可、残は破棄